

ふくしま

再生 短信

2022/1/16～17 「星空観測小屋」 建設現場同行記

学びは宇宙へ

星

空チームのサムライたちが酷寒の最中で黙々と星空観測小屋の建設作業を進めている(写真1)。現場は風と土の家の南側、学び舎前(No.の西側)。



5

2022年1月16、17の両日、星空チームこと「星空観測小屋建設チーム」(チームリーダー・内田理さん)の観測小屋建設作業に同行、内田さんから今日に至る経緯を伺った。観測小屋は全体を覆う屋根が車輪

で移動する構造(写真2)、まさに「小天文台」の風格。屋根の移動は高い精度を求められ、サムライたちが骨組み

固定のために試行錯誤を繰り返す難工事。

1991年来東北大学の惑星圏飯館観測所が震災の苦難を超え大型電波望遠鏡で惑星観測、太陽電波の連続観測も実施してきた。村からは東北大に共感した前田地区の佐藤俊雄さんらが口径二十センチの反射望遠鏡を導入



1



3

2

が震災後中断し望遠鏡は村役場に保管。建設中の観測小屋はこの反射望遠鏡を引き継ぎ観察再開となった。



4

吉さんを加え2021年4月25日三人

で発足。続いて二宮克彦さん、徳田勝八さん、そして内田さんの畏友の報道写真家・富田きよむさん(写真3)



7

ならびに星空案内資格保持者・原口利雄さん(写真5)を加え今日の七人のサムライが誕生。菅野永徳さんは一貫してチームを支えてくれ、小屋建設の基本的助言始め、シヨベルカーでの整地作業や自動カンナの提供にも大いに助けられた。今宵は煌々たる月明かりが現場を照らし(写真5)、翌朝は大きな真紅の太陽が骨組みに輝いた(写真6)。三月中に完工し完成イベントを予定。星空案内人・原口さん「子どもたちを中心に広く宇宙に興味を持つきっかけの拠点になってくれることを願っています」。

完成した骨組みの前に立ち遙かそらを見上げる内田さん(写真7)。
星空観測小屋の建設は、地球環境基金から助成を受けて進められています。

(文責&撮影・若林一平)



6